

## 「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体)

2. あなたが本学大学院に進学した主な理由は何ですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため。	6	19%
B	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから。	13	42%
C	資格取得のため。(税理士試験科目免除、臨床心理士試験受験資格、教員専修免許等)	8	26%
D	大学院修了という学歴がほしかいから。	2	7%
E	将来に不安を感じたから。	1	3%
F	時間に余裕が出来たから。	0	0%
G	その他	1	3%

G:理由

地文M2 特定の教員の下で学びたいため。

3. あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	学部の指導教員	9	22%
B	先輩	8	20%
C	学内での説明会	7	17%
D	オープンキャンパス	0	0%
E	大学院パンフレット	11	27%
F	本学ホームページ	5	12%
G	その他	1	2%

G:理由

法学M1 予備校の先輩が本学大学院を修了していたので話を聞きました。

4. あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	理論的研究	5	16%
B	調査・インタビュー・実験を用いる研究	10	32%
C	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究	2	7%
D	課題の発見に関する研究	5	16%
E	課題の解決を目指す研究	4	13%
F	実践的応用に関する研究	5	16%
G	その他	0	0%

②現時点における研究の状況はどのようになっていますか。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
研究テーマ・内容が明確である	6 (38%)	7 (44%)	3 (19%)	0 (0%)
研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている	3 (19%)	9 (56%)	4 (25%)	0 (0%)
研究の計画が具体的に定まっている	5 (33%)	4 (27%)	4 (27%)	2 (13%)
研究を行うときには、自分自身の判断によつてすすめている	5 (31%)	4 (25%)	5 (31%)	2 (13%)
他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る	4 (25%)	11 (69%)	1 (6%)	0 (0%)
学外の研究者と交流している	1 (6%)	2 (12%)	10 (63%)	3 (19%)

## 「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体)

5.今年度、大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。

	人数	割合
0科目	1	6%
1～2科目	3	18%
3～5科目	4	23%
6～10科目	3	18%
11科目以上	4	23%
無回答	2	12%

②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	12	80%
B	ない	1	7%
C	科目の履修はしていない	1	7%
	無回答	1	7%

②(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	心理学研究法特論	自分の修論の計画に役立つと思っています。
地文M1	履修科目すべてにおいて	(歴史的、哲学的)理論体系を学べる 新しい領域とされる学術分野(しかも自身の研究分野に深くかかわる)に出会えた 知識経験豊かな現役専門職から現場に即した知識と感性を得られる
地文M1	心理統計法特論 心理研究法特論	心理学研究の種類や、分析の仕方を整理して学ぶことができた。 研究を計画する手順を学ぶことができた。
地文M1	心理学研究法特論	研究計画を立てる際に注意すべき点が見える。また、今まで知らなかったような研究方法を知ることができる。 統計的な分析手法について理解が深まる点も良い。
地文M1	グループアプローチ特論	グループ(集団)を対象とした際に、心理士がどのようなことに配慮し、気をつけて進行していくことが必要なのかを実践的に学ぶことが出来た点です。どのように振る舞うことがいいのか、悪いのか、それは何故なのかといったことを講義を通して考えることが出来るので、実際の研究でグループを対象とするときにも、(まだ実践の中で十分には発揮できていませんが)どうしてうまくいったのか、いかなかったのかと振り返る時に感覚だけではなく理論的に説明する能力が身につけていると思います。
地文M2	臨床心理実習	現場でどのようなことを起こっていて、何が課題なのかを、実際目で見たり、現場の専門家に話を聞くことができる点と、それを講義のなかで皆で話し合う機会もある点。
地文M2	日本語文化特殊研究 II	修士論文を完成させるためのきめ細かな指導。
地産M2	経済情報統計解析	実用的な統計解析・分析手法を学ぶ点
法学M1	税法特殊研究 I	法律の解釈が問題となる場面で、どういった意見があるのかということ調べる方法等を具体的に教わったので、今後、わからないことがあった場合に活用できると思います。
法学M2	特殊研究	自分の論文のテーマについての勉強ができ、周りとの比較から自分自身の論文の進捗状況の比較ができる。また、先生からの指導を受けることができ、論文作成に大きく役に立った。

③(1)今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良いと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	1	7%
B	ない	12	80%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	2	13%

## 「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体)

③(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点の改善した方が良いと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M2		基本的な研究をより具体的に学ぶ科目が必要。統計や哲学など、専攻科というより基礎的科目が設定して欲しいと思った。

6. あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	11	65%
B	満足していない	2	12%
C	どちらでもない	1	6%
	無回答	3	17%

②満足できない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地産M2	マーケティング分野の講義が少ない。
------	-------------------

③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	あった方がよい	11	65%
B	なくてもよい	0	0%
C	どちらでもよい	4	23%
	無回答	2	12%

④その他、指導体制、方法、環境に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	図書館設備、蔵書が素晴らしいです。できることなら夏季休暇等以外も子ども(中学生以下)のアクセスが可能になればありがたいです。
地文M2	ある一定の期間(修論提出前など)だけでも、院生室(PC室・控え室)の開放時間を延長してほしい。
地文M2	入学前に得る情報が多いにこしたことはないと思います。

7. 大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	6	35%
B	満足していない	4	24%
C	どちらでもない	4	24%
	無回答	3	17%

②満足していない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地文M1	大学院生や非常勤・嘱託の先生方が使用できるPC室の一部が私物化されていることが気になっています。場所が固定されている方が、使いやすいのはよくわかるのですが、皆で平等に使用できるようにしてほしいと思います。
地文M2	図書館の貸出冊数を20から25へお願いしたいです。 夏休みなどの一定の休みの期間の際は、13号館6階だけでも開館時間を23時から24時へお願いしたいです。 コピー機、プリンタの点検を定期的にお願ひしたいです。
地産M1	他大学や研究機関へ資料を請求したときの大学院生用の窓口や、資料の受信送信などで自由に使用できるFAXがあると便利です。資料請求で依頼をした先方がスキャナを持っておらずPDF化できなかった場合、メールではなく「FAXで送信致します」と指定される場合があります。そういった際にいつも困ります。
地産M2	カラーコピー機を導入して欲しい。
法学M2	研究室のを24時間開放してほしい。

## 「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体)

③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	9	53%
B	たまに利用している	5	29%
C	全く利用していない	0	0%
	無回答	3	18%

④その他、大学院の施設・設備に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	パソコン室が使いにくい。パソコンが私物化されていて、使いたいところが使えないのは困る。
地文M1	13号館6階PCルームでは、たとえ研究に関することでも、できれば話(ディスカッション等)をすることを遠慮していただければ助かります。
地文M1	大学院自習室のフロア24時間利用できるようになるとありがたい。 第一駐車場が2階建てになると、混雑が解消できて良い。
地文M2	院生パソコン室で使用する用紙やプリンタインクなどの交換タイミングについてです。まず、用紙について、無くなってからの補充はいかなものか。 (いつでも使用できるようA4用紙ならば、常に一箱は常備していただきたい。) 続いて、プリンタインクについて、インクの交換表示がなされているにも関わらず、院生からの申請がなければそのままのはいかなものか。
地産M1	エアコンの暖房と冷房の切り替えを親機で一括で管理しているため、資料室、PC室なども一緒に連動しています。 天気が暖かい日や寒い日が交互に続くと親機の設定も頻繁に変わり、室温も一定ではなくなるのでカビの発生やPCの過熱などにつながると思っていますので、部屋ごとに切り離れたほうが良いと思います。 大学院生のPC室の利用に関してですが、帰宅時にPCのログインや電源を落とさずに帰る人が非常に多いので電気代がもったいないと思います。
地産M2	大学院・大学のスケジュールに不満があります。論文提出数一週間前に、センター試験のため学校へ入れないのは大変困りました。学校にしかないソフト(S PSS)など、使用しなければならぬためです。また、論文提出前は、13号館の開館時間を拡大するなどしてほしいと思います。
法学M1	個人的にもう少し遅い時間まで利用できるようになるとありがたいです。

8. 教育支援者(TA・SA)制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者(TA・SA)として、学部授業のサポートを行っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	行っています	7	41%
B	行っていません	4	24%
C	過去に経験があります	2	12%
	無回答	4	24%

②M2以降も、教育支援者(TA・SA)を続けたいと思いますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	続けたい	3	50%
B	続けたくない	1	17%
C	どちらでもない	2	33%

③上記②において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	自分自身の勉強にもなる為。
地文M1	研究や実習を行うことを考えると、時間が無いと感じる。
地文M1	TAとして学生や先生と関わったり、講義を再度受けることが、自分自身の能力アップにつながっていると感じるからです。また、大学院生になると、バイトを行うと学業が疎かになってしましますが、経済的な面を考えると、何も収入源がないのはとても不安です。私の場合は、自身の勉強の合間に出来るTAの仕事がその収入源としての頼りなので、M2以降も続けていけたらいいな、と思います。
地文M1	自らの基礎を見直すきっかけとなるからです。
地文M2	状況判断でしかないのです。
法学M1	そのまま続けたい気持ちと、自分の勉強に専念したい気持ちがあります。

## 「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体)

④教育支援者(TA)経験が無い方へ質問です。教育支援者(TA)の経験をしてみたいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	してみたい	3	43%
B	してみたくない	0	0%
C	どちらでもない	1	14%
	無回答	3	43%

⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	現況では時間配分(仕事&学業)の目安が立たないため。
地文M1	学部生のサポートをすることによって、自分自身も学習内容を深く理解できるようになるため。
地産M1	先生のサポートをすることで、講義に関わり、自分の理解度も深めることができそうだから。
地産M2	勉強になりそうだから。

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねします。

①本学にある4研究所を知っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	知っている	10	59%
B	知らない	3	18%
C	興味がない	0	0%
	無回答	4	23%

②本学の研究所の施設を利用したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	0	0%
B	たまに利用している	2	12%
C	全く利用していない	11	65%
	無回答	4	23%

③本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく参加している	1	6%
B	たまに参加している	4	24%
C	全く参加していない	8	47%
	無回答	4	24%

10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。(時間数、科目の種類など)

地文M2	院生が全員で受ける科目が一つぐらいあるといいですね。顔も知らない人も多いですから。
地文M2	学費、もう少しおさえていただくと助かります。(学部・院ともに)
地産M1	学部するとき、大学院進学のため指導教員以外にもOB・OGへ相談をしようと思ったのですが、なかなか気軽にはいける雰囲気ではなかったのもっと大学院が開かれたイメージになったら良いと思います。入学しても、やはり閉鎖的な環境なんだと感じました。 院生と学部をつなげるために、先生方が行っているオフィスアワーのようなものの院生verがあれば良いと思いました。学部生が気軽に進路や院生を通してのOB・OGの紹介、卒論の話や相談などができる場所があっても良いのかなと思います。
地産M1	PC室にMacPCを追加してください。なぜか、Windowsが主流のような雰囲気があります。Macの方が、統計やデータを加工するときに便利です。
地産M2	地域産業研究科でも、専門社会調査士の資格取得ができるようにすべき。(他学科の科目認定も必要。) 学外ゼミ費や研究費などがあると良い(既にある場合は、オリエンテーションなどで紹介してほしい) 講義登録期間が短い&他大学の期間とずれていて単位互換の際、不便